

**2018年度
大学入試
調査報告**

大学入試での「英語の検定利用」 入試改革を見据えて実施大学が急増！ 採用率は「英検」が依然圧倒的、レベルは「準2～準1級」！

教育出版の株式会社旺文社（東京都新宿区、代表取締役社長 生駒大壱）の教育情報センターは、2018年度大学入試（一般入試、推薦・AO）における英語の外部検定利用について、全大学の入試要項の分析を行いましたので、その結果を、12月18日にお知らせいたします。

【大学入試での「外部検定利用」とは】

今年の注目は一般入試。2021年1月にスタートする、センター試験に代わる「共通テスト」では、外部検定の成績が利用可能になり、さらに国立の一般入試では必須化の方針が出されました。この改革に先んじて、各大学の一般入試では、すでに利用が急激に広がっています。

来年の4月には、いよいよ改革初年度の学年が高校に入学してきます。これから外部検定の取得熱が急速に高まっていくのは間違ひありません。

一般入試での急速な拡大続く。推薦・AO入試も増加が続く。

一般入試で外部検定利用がはじまって4年目の今年度は、利用大学が前年から4割増。全大学の2割にあたる152大学に増加しました。推薦・AOで利用する大学も335大学となり、トータルでは全大学の半数が外部検定利用入試を実施しています。

⇒【資料①】外部検定を入試に利用している大学数

英検が不動の高採用率！

大学が利用「可」とする検定は、一般入試、推薦・AOとも、前年に続き「英検」が圧倒的です。一般入試では、大学入試専用に開発された検定「TEAP（ティープ）」をはじめとした他検定も採用率が上がってきています。

⇒【資料②】どの外部検定を受ければよいか

一般入試では英検2級、推薦・AOでは英検準2級レベルを求められる。

大学入試では、準2～2級レベルを基準にしている大学が多く見られます。大学入試で検定を利用する場合には、このレベルを取得しておくことが必要です。

⇒【資料③】どのレベルが入試に利用できるのか

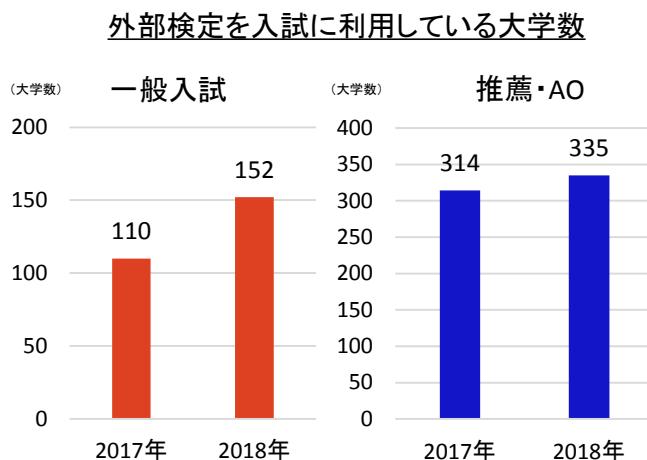
【会社概要】株式会社 旺文社

代 表 者 : 代表取締役社長 生駒 大壱
設 立 : 1931年10月1日
本 社 : 〒162-8680 東京都新宿区横寺町55 / TEL.03-3266-6400
事 業 内 容 : 教育・情報をメインとした総合出版と事業
U R L : <http://www.obunsha.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】 株式会社旺文社 広報担当

TEL:03-3266-6400 / FAX:03-3266-6849 / E-mail:pr@obunsha.co.jp

【資料①】外部検定を入試に利用している大学数

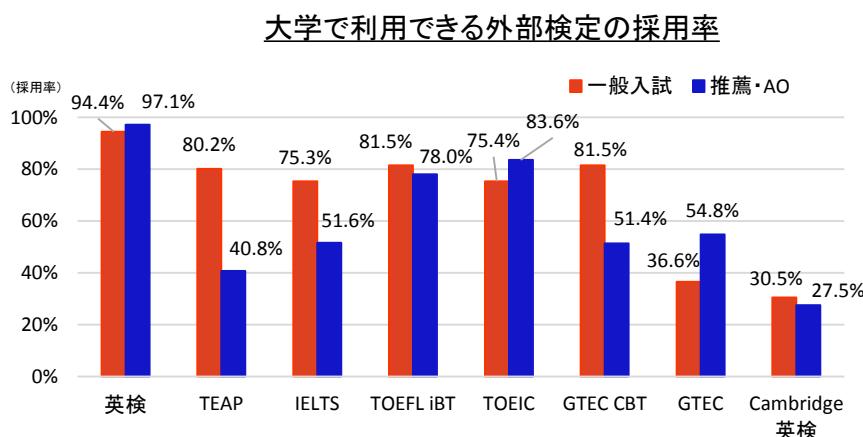


<ポイント>

- 全762大学中、一般入試では152大学(19.9%)、推薦・AOでは335大学(44%)が外部検定利用入試を実施。

- 注目のトレンドは一般入試で前年比38.2%増。特に私立大での新規導入が目立つ。小・中規模の大学にも普及。

【資料②】どの外部検定を受けければよいか



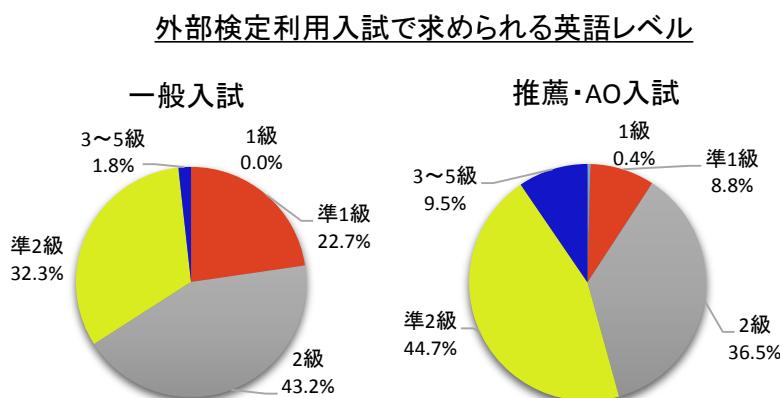
<ポイント>

- 受験生は、多くの大学で利用できる検定を取得しておくのが無難。

- 一般入試、推薦・AOとも、「英検」の採用率が最多。ほとんどの大学で利用ができる。

- 一般入試では、大学入試向けに開発された「TEAP」をはじめ、多くの検定で採用率が上昇し、受験生の選択肢が増えてきている。

【資料③】どのレベルが入試に利用できるのか



<ポイント>

- 国が高校卒業時の目標として定めるのは英検準2級～2級程度。

- 一般入試、推薦・AOともボリュームゾーンはこの準2級～2級。

- 一般入試では2級レベル、推薦・AOでは準2級レベルと、一般入試のほうがやや高いレベルを求める大学が多い。